

## 道徳教育の推進の在り方に関する研究（中間報告）

平成27年3月の学習指導要領の一部改正により、「特別の教科 道徳」が設置されることになった。道徳教育が期待される役割を十分に果たすことができるよう、答えが一つでない道徳的な課題に一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。そこで、道徳教育の推進体制づくりや、発達の段階を考慮した計画的・発展的な指導と評価の在り方について研究を進めてきた。本稿では、小・中学校と高等学校の研究協力委員6名による所属校での実践から、各校の推進体制づくりの工夫や評価を生かした授業改善、小中高のつながりを意識した指導計画など、道徳教育推進における成果と課題を中間報告としてまとめた。

<検索用キーワード> 道徳教育 道徳科 道徳教育推進体制 問題解決的学習  
一枚ポートフォリオ評価 評価を生かした授業改善 小中高のつながり

### 研究協議会顧問

名城大学人間学部教授 宮嶋 秀光(平成28,29年度)

### 研究協議会委員

清須市立西枇杷島小学校教諭	岩崎 寛(平成28,29年度)
高浜市立高取小学校教諭	田中 智恵(平成28,29年度)
犬山市立南部中学校教諭	野田 亜希(平成28年度)
犬山市立南部中学校教諭	深見 倫恵(平成29年度)
西尾市立吉良中学校教諭	神谷 順子(平成28,29年度)
県立津島北高等学校教諭	岡崎 直広(平成28,29年度)
県立安城南高等学校教諭	鈴木 啓仁(平成28,29年度)
総合教育センター研究指導主事(現知立市立竜北中学校長)	吉富 靖(平成28年度)
総合教育センター研究指導主事(現県立城北つばさ高等学校教頭)	鳴澤由紀子(平成28年度)
総合教育センター研究指導主事(現大府市立共長小学校教諭)	高石 幸信(平成28年度主務者)
総合教育センター経営研究室長	澤田 美代(平成29年度)
総合教育センター研究指導主事	広瀬八重子(平成28,29年度)
総合教育センター研究指導主事	大野 靖典(平成28,29年度)
総合教育センター研究指導主事	吉本 順子(平成29年度)
総合教育センター研究指導主事	小川 雅美(平成29年度主務者)

## 1 はじめに

近年のグローバル化の進展や情報通信技術の急速な進歩により、今後、子どもたちは、予測の難しい社会状況に対応していくことが不可欠である。そのような社会を生き抜くためには、一人一人が、道徳的価値の自覚の下、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である。こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育が果たす役割は大きい。

平成25年に文部科学省に設置された道徳教育の充実に関する懇談会において、「今後の道徳教育の改善・充実方策について」と題する報告がなされた。そこでは、道徳教育の課題として、「学校間、教師間の差が大きい」「各教科等との役割分担や関連を意識した指導が十分でない」「指導方法に不

安を抱える教師が多い」などが挙げられた。翌年、策定された中央教育審議会の「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」では、小・中学校の道徳の時間を教育課程上「特別の教科 道徳」（仮称）として位置付け、その目標、内容、教材や評価、指導体制の在り方等を見直す必要があるとされた。それを受け、平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）が設置されることになった。道徳教育が期待される役割を十分に果たすことができるよう、答えが一つでない道徳的な課題に一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。

当センターでは、平成25年度から平成27年度にかけて「高等学校における道徳教育の推進の在り方に関する研究」、平成26・27年度は「小中学校における多様な評価手法に関する研究（道徳）」に取り組んだ。これらの研究の成果を踏まえ、発達の段階に応じた道徳教育の更なる充実を目指して、研究を進めている。

なお、研究協力委員の所属校では、道徳の時間を、「特別の教科 道徳」（道徳科）としては実践していないが、本文の中では「特別の教科 道徳」または「道徳科」と表記している。

## 2 研究の目的

各学校種における道徳教育の推進体制づくりや、発達の段階を考慮した計画的・発展的な指導と評価の在り方について研究し、各学校種における道徳教育の充実に資する。

## 3 研究の方法

- (1) 小・中学校、高等学校の研究協力委員が、各校種の状況について情報交換を行い、各校種に応じた推進体制づくりと児童生徒の発達の段階に応じた指導方法や評価について研究協議する。
- (2) 各研究協力委員が所属校において、「推進体制づくり」「指導方法の工夫と評価の取組」について実践し、効果的な取組について検証する。

## 4 研究の内容

学校全体で道徳教育を推進する上で、各校種、学校の実態等に応じて、重点的に取り組む内容は異なる。学習指導要領解説、各種の答申・報告等及び各研究協力委員のこれまでの実践を基に、研究の方針を考える上で必要となる基本的な考え方を整理した。

### (1) 道徳教育の推進体制づくり

学習指導要領「特別の教科 道徳」に、「校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること」とある。そこで、学校の道徳教育目標に向けて、全教師が協力し合う充実した指導体制にするために、「全体計画の作成、活用、改善」「道徳教育の指導を支える環境の整備」「指導の充実、評価の取組」の三つの視点で、実践を行うこととした。

### (2) 指導方法の工夫と評価の取組

道徳教育の質的転換のためには、質の高い多様な指導方法の確立が求められている。学習指導要領「特別の教科 道徳」にも、「児童（生徒）の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に入れるなど指導方法を工夫すること」とある。小・中学校については、「考え、議論する道徳」の実現に向け、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の三つの指導方法を中心に指導展開を工夫していく必要がある。高等学校については、各教科等における指導の中

で、中学校との円滑な接続を図ることが課題であるため、「中学校の道徳科の内容を基にした道徳的観点の明確化」「道徳的観点に関して生徒が考えたり、対話したりする場面の設定」「学びの振り返りの実施」の三つを意識して指導展開を工夫することとした。

また、評価については、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」の二つの観点を中心に、授業中の見取りや振り返りの記録の集積等を、継続的に把握することが必要であることを確認し、授業改善につなげていくこととした。

## 5 研究協力委員の実践概要

### (1) 道徳教育の推進体制づくり

#### ア 全体計画の改善に関わる体制づくり（A高等学校の実践）

高等学校では道徳科が設置されていないこともあり、誰が担当するのかという課題が生じる。A高等学校では、生徒指導部において、道徳的な観点で行う行事や活動が多いことから、生徒指導主事が道徳教育推進教師を担当し、生徒指導部を中心とした推進体制をつくった。そして、全体計画の改善を通して、推進体制の充実を図ることとした。

全体計画の改善の手順は、①生徒指導部員を道徳教育推進支援員とする、②道徳教育推進教師が、教科主任会と運営委員会（分掌主任会）で全体計画の改善の必要性を伝える、③道徳教育推進支援員が各教科・分掌主任と連携し、改善作業に取り組むとした。改善に当たっては、道徳教育が校内でどのような目的をもって実施されるかが一目で分かるように、全体計画をA4紙1枚程度にまとめ、今後、社会に開かれた教育課程として、学校のホームページなどに公開できるよう、保護者や地域の方にも分かりやすい言葉を選んだ。事前に目的や作業手順を具体的に示すことで、協力体制を得ることができ、スムーズに作業を進めることができた。

#### イ 指導を支える環境の整備（B小学校の実践）

B小学校では、これまでも道徳科の学習指導案や黒板掲示物等の資料を保管する場所があり、授業者は教材研究や授業準備が行いやすくなっている。そこで、現在の環境を生かして、各授業者の実践の成果も共有することで指導の充実につなげたいと考え、発問に対する児童の様子や板書の写真などの授業記録等も保管することにした。

今年度初めの職員会議において道徳教育推進教師が、道徳教育推進についての方針や計画を提案するとともに、新たな取組として、授業実施後に、児童の発言の内容や改善点等を指導案に手書きで記入したり、板書の様子を撮影し、それを印刷して保管したりすることを依頼した。

6年生で、主題名「感謝の気持ち」（内容項目<sup>\*注</sup>「B－礼儀」資料名「お礼の力」出典「明るい心6年」）で授業を行った。道徳的価値の理解を深めるために、展開の部分で役割演技を取り入れたことが授業者の手書きの記録（次ページ資料1）から分かる。「横断歩道を渡り終わった小学生にお辞儀をされた運転手は、どんなことを思ったでしょう」という発問に、「車を止めて渡らせてあげてよかった」という考えが多く出たことや終末での教師の話の内容も記録してある。

このように授業記録を蓄積していく中で、「児童のワークシートの記述内容も記録し残していくとよいのではないか」という授業改善に向けた前向きな提案があった。指導案への手書きの記録の蓄積がまだ少ないこともあり、次の授業者が記録を活用するまでには至っていない。今後、記録を活用した授業づくりを通して、自分が残した記録が、次の授業者の授業づくりに役立ったという実感を授業者が味わえる機会を増やすことが、記録の蓄積や活用の充実につながると考える。

\*注 内容項目：児童生徒が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものである。

【資料1 授業の様子を記入した指導案】

	学習活動・主な発問	指導上の留意点
導入	1 感謝の言葉を使った経験を発表する。 ① どんなときに「ありがとう」と言ったことがありますか。 ○ 運動場で転んでけがをして、保健室で手当してもらったとき。 ○ 落とした鉛筆を友達に拾ってもらったとき。	○ 感謝の言葉に関する自分の経験を発表し、本時の学習内容に対する関心をもたせる。
展開	2 本資料を読んで話し合う。 ① 筆者の母の教えを農家の男性に話したとき、農家の男性はどんなことを思ったでしょう。 ○ ありがたい言葉であり、うれしい。 ○ 喜んでもらえてよかった。 ○ そんなふうと考えていてくれる人もいるんだな。 ② 横断歩道を渡り終わった小学生にお辞儀をされた運転手は、どんなことを思ったでしょう。 ○ 車を止めて渡らせてあげてよかった。 ○ とても丁寧なお辞儀で礼儀正しい子だな。 ○ お礼を言われてうれしいな。 ③ 電車の中で席を譲ったお年寄りにお礼を言われ、女性はどんなことを思ったでしょう。 ○ 席を譲ってよかった。 ○ あんなに喜んでくれた。次回も誰かに席を譲ってあげよう。 ④ 心のごもったお礼は、周りの人をどんな気持ちにするでしょう。 ○ やってあげてよかったと、うれしい気持ちにする。 ○ また何かしてあげたい気持ちにする。 ○ 話を聞いただけで、優しい気持ちになる。 ○ 自分もこんなことをしてみたい。	○ 筆者の母から教えられた感謝の意味を読み取り、農業をしていることに対して、感謝されてうれしくなった男性の気持ちを理解させる。 ○ お礼を言われた運転手が、満面の笑みで会釈をしている態度から、小学生のお辞儀で穏やかな気持ちになっていることに気付かせる。 ○ 席を譲ったお年寄りが喜んでくれたことで、うれしくなった女性の気持ちを感じ取らせる。 ○ お礼にはどんな力があるか、じっくりと考えさせる。 ○ お礼の言葉に心をこめることで、言った人だけでなく、言われた人も気持ちが穏やかになり、優しい気持ちになることを理解させる。
終末	3 感謝の言葉にふれた経験を発表する。 ① 「お礼の力」を感じたことはありますか。それはどんな場面でしたか。 ○ 1年生の荷物を持ってあげたら、お礼を言われて、またやってあげようと思った。 ○ 協力してくれた人にお礼を言ったら、自分も相手も笑顔になって、今までより仲よくなった。 4 感謝の言葉について、教師の話を書く。 <u>運転手 騎馬戦の話</u>	○ よい行いに対する「尊敬・感謝」を強調しすぎないで、心をこめてお礼を言う「礼儀」のよさを感じ取らせる。 ○ 感謝の言葉は、言う人だけでなく、言われた人や聞いた人の心も穏やかにするという話など。

ウ 指導の充実に向けた学年部会での提案（C中学校の実践）

C中学校では、道徳科に苦手意識をもつ授業者の授業準備に対する抵抗感を少しでも減らし、授業に前向きに臨めるようにしたいと考え、道徳教育推進教師が、「シナリオ型授業展開案」を提案した。

2年生で、主題名「互いのよさを見つけよう」（B-友情・信頼）で授業を行った。事前の学年部会での協議では、シナリオ型授業展開案（次ページ資料2）を提案したことで、授業の流れが把握しやすくなり、「自分が授業をするなら」と具体的にイメージしながら、授業についてさまざまな意見が出された。資料2の下線部は、学年部会での意見を取り入れて、付け加えた部分である。

生徒が興味をもって考えやすい内容を扱った方がいいとの学年部会での意見から、導入で血液型のイメージを話題にすることにした。展開の部分で班から出た意見を発表する場面では、「男らしさ」「女らしさ」について生徒の意見をそれぞれ違う色のカードで黒板に貼ることで、自分たちの中にも「男」「女」のイメージがあることを視覚的にも実感できるようにした。また、終末の学習を振り返る場面では、自分の生活を振り返り、学年行事の自然教室（野外教育活動）での出来事と関連付けることで、より自分事として考えられるように工夫した。

今後も、ねらいの内容や発問など改善を重ねながら展開案を提示していくことで、教師が「やって

みよう」と負担感なく授業に取り組み、授業改善につながると考える。

【資料2 シナリオ型授業展開案（①～⑫が教師の言葉）】

主題名	互いのよさを見つけよう
資料名	「たまたま女に生まれただけ」（明るい人生 2年）
ねらい	B－友情・信頼 互いに異性について正しい理解を深め、相手の人格を尊敬していこうとする気持ちを高める。本題材では、「男だから・・・」「女だから・・・」という先入観や偏見を捨て、互いの特性を理解し、認め合い尊重していける関係を築く。
導入	<u>ウォーミングアップで、「A型」「B型」「O型」「AB型」のイメージを考える。</u> ① A型といえばどんな人？ ② B型といえばどんな人？ ③ O型といえばどんな人？ ④ AB型といえばどんな人？
展開	1 班で男女に分かれ、「男らしさ」「女らしさ」とはどういうものか出し合う。 ⑤ 「男らしさ」「女らしさ」とは、具体的にどんなことだろう。班で出し合ってみよう。 ⑥ 班で出た意見を発表しよう。 <u>※意見（男らしさ：水色，女らしさ：ピンク）のカードを黒板に貼る</u> 予想される意見（カードに記入しておく） 男らしい男：泣かない，力持ち，短髪 女らしい女：言葉遣いが優しい，身なりに気を遣っている，ロングヘア ⑦ それぞれの班から出た意見を見て，疑問に思うことや気付いたことはないか？ <u>※カードの色（「男らしさ」水色，「女らしさ」ピンク）に触れてもよい。</u> 2 資料「たまたま女に生まれただけ」を読む。 3 お互いを尊重することについて考える。 ⑧ 「社会は男のもの」「女は損」という見方や考え方についてどう思うか。 ⑨ 「『たまたま』についてもっと真剣に考えてみよう」と言っているのはなぜだろうか。 4 自分の生活を振り返って，考える。 ⑩ 「男のくせに」「女のくせに」と思ったり，言われたりした経験はあるか。 ⑪ <u>逆に，「男の子がいてよかった」「女の子がいてよかった」と思うことはないか。</u>
終末	5 本時の学習を振り返る。 ⑫ それぞれの特性を生かして，互いに関わっていくことの大切さについて考えよう。 <u>※自然教室での関わりにも触れる。</u>

(2) 道徳科の学習における指導方法の工夫

ア 問題解決的な学習（D中学校の実践）

D中学校では、道徳科の授業に対する教師の不安を取り除くために、全校で共通する授業展開のイメージをもたせることで指導の充実を図った。道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議の「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価について（報告）」で、道徳科における質の高い多様な指導方法として示された「問題解決的な学習」の実践に取り組んだ。

全校で授業公開を実践する前年度に、道徳教育推進教師が問題解決的な学習による示範授業を行った。翌年度、全担任が「D－生命の尊さ」について問題解決的な学習による授業（資料3）を行うこ

ととした。授業者が教材理解や話し合いの工夫の吟味などに時間をかけられるように、道徳部会で、簡略化した学習指導案を提案したり、掲示用のセンテンスカードを作成したりもした。

【資料3 各学年の主題名とねらい（D－生命の尊さ）】

学年	主題名（内容）	ねらい
1年	捨てられる命（殺処分）	人も動物も、命はかけがえのないものであることに気付き、命あるものを大切にしようとする心情を育てる。
2年	かけがえのない命～命の判断～（臓器移植）	息子の脳死に直面した両親が臓器移植をするか、しないかの葛藤の場面を通して、生命の重さに気付き、自他の生命を尊重しようとする心情を高める。
3年	捨てられる命、救う命、これからの命（赤ちゃんポスト）	赤ちゃんポストの是非を問う話し合いを通して、生命の重さに気付き、自他の生命を尊重しようとする心情を高める。

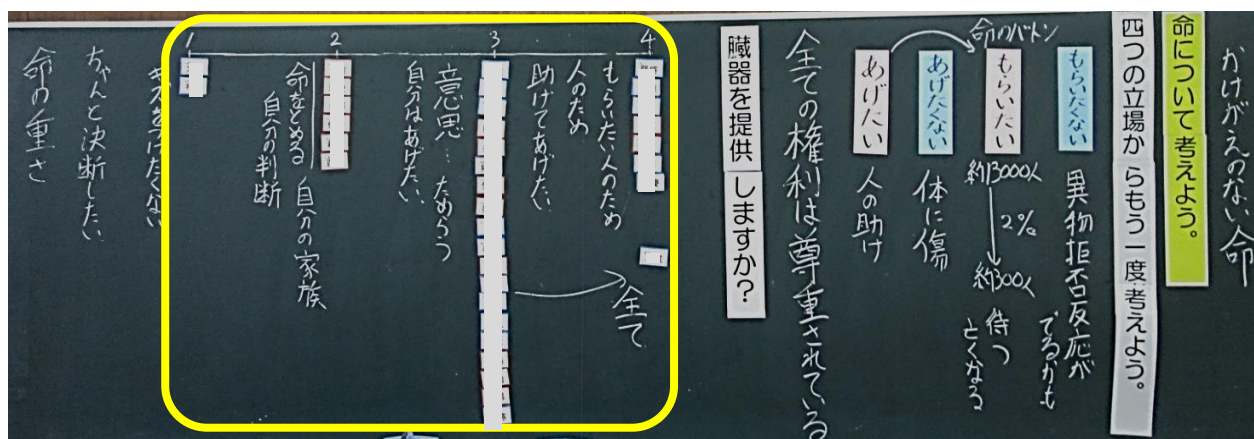
問題解決的な学習で、生徒が問題場面について自分の考えを深める際、教材の内容を理解することに時間がかかり、話し合いが十分に行えないことがよくある。そこで、登場人物の気持ちを理解したり、教材を読み取ったりする手助けとして、どの学年も映像資料を用いた。「殺処分」「臓器移植」「赤ちゃんポスト」はニュース等でも取り上げられる話題であるが、中学生には難しい専門用語もある。さらに、何が問題となっているのか、どんな状況になっているのかを十分に理解した上で、話し合いを行うために、全学年2時間完了として扱った。

授業では、映像資料を視聴しながら、教師はセンテンスカードや挿絵を黒板に掲示していった。キーワードが黒板に残るため、話の流れや登場人物の気持ちをイメージしやすくなるだけでなく、掲示されたキーワードを手がかりに、資料の内容を思い出し、自分の考えを深めることができた。

第2学年で行った「臓器移植」の問題を通して、生命の尊さについて考える学習では、臓器移植を提供する人やされる人、それぞれの家族など、さまざまな視点を教師が与えながら生徒の考えを引きだした。その後、「もし、自分の家族が脳死状態にあったら、家族の臓器を提供しますか」という中心発問へと進めた。

中心発問の「自分だったら、家族の臓器を提供するか」について、ワークシートの数直線上に今の自分の考えを生徒に書かせた。数直線は4段階にし、提供するかどうか決められない生徒は、迷っている状況を「2」か「3」で選べるようにした。グループトークを通して自分の考えを深めた後、黒板の数直線上に生徒のネームプレートを貼り（資料4）、話し合いを行った。

【資料4 心の数直線による生徒の考えの視覚化】



その後の話し合いでは、黒板のネームプレートを見ることで、生徒が自分の考えと友達のことを比べながら意見を聞いたり、自分や友達のことを変化を知ったりすることができ、教師も生徒のことを把握することができるので、意図的に指名して生徒たちのことをより深めることができた。次の文章は、2時間の学習を振り返った生徒1の記述である。

生徒1：臓器移植という決断には、親のたくさんの思いがあって「どれだけあなたの命が大切か」という大きなことを知ることができました。この授業を通して、生きることの幸せや親が産んでくれたことへの感謝の気持ち、これら全てに関係する「命」の大きさ、大切さを知ることができました。

生徒1は、1時間目の振り返りでは、「臓器移植はたくさんの思いがあって決断したことが分かりました。でも、自分の命は自分で決めればよいと思います。」と書いていた。今回の学習を通して、「生きることの幸せや親が産んでくれたことへの感謝の気持ち」に気付いたことから、命のつながりや連続性について考えを深めることができた。

授業者からは「問題解決的な学習の授業展開が少しずつ見えてきた」「こんなに道徳科の教材研究をしたのは初めて」という声が聞かれ、問題解決的な学習の授業展開や板書のイメージが湧き、授業づくりへの意欲化につながった。今回は、どの学年も「生命の尊さ」という内容項目で実践したが、生徒の発達段階や教師の力量を考えると、1学期の実践としては、生徒が考えやすい身近なテーマにしてもよかったのではないかという意見も出た。

#### イ 発達の段階に応じた指導計画の作成（E高等学校の実践）

E高等学校では、道徳科が設置されていない高等学校における道徳教育の実践として、マイクロインサクション（各科目の中に道徳的な話題を埋め込む手法）を取り入れた公民科の授業実践を行った。高等学校学習指導要領の公民科「現代社会」の「内容」として、次のような記述がある。

#### 個人の尊重と法の支配

個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。

この中の、「生命の尊重」「人間の尊厳と平等」「他者と共に生きる倫理」に着目し、裁判員制度についての学習において、生徒が「生命の尊さ」について自分との関わりの中で考えを深めていけるようにしたいと考えた。「生命の尊さ」に係る小・中学校の道徳科の内容項目は以下のとおりである。

学年・学校段階	内 容 項 目
小学校1・2年	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
小学校3・4年	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
小学校5・6年	生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
中学校	生命の尊さについて、その連続性や有限なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

高等学校の段階になると、人間関係や行動範囲が広がり、生徒はさまざまな価値に触れることで、自分自身や自分の生き方について思い悩む時期である。そこで、生命に関わる諸問題について自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成していけるよう、本単元のねらいを以下のように設定した。(下線部は道徳的な内容に関わる部分)

自分自身が助かるために別の一人を犠牲にしてしまい、裁判にかけられた男の話を通じて、司法制度(裁判員制度)の在り方を深めつつ、道徳的な視点も踏まえ生命に関わる諸問題について、自分であればどのように行動していたのか考え、根拠を明確にしながらか議論する。

そして、道徳的観点に関して生徒が考えたり、対話したりする場面の設定として、裁判員制度について学習した後、探究課題についてグループで考える指導計画(資料5)を作成した。

### 【資料5 指導計画(3時間完了)】

	学習内容	学習活動
第1時	司法制度改革について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員制度について知る。</li> <li>・選挙権年齢の引き下げについて知る。</li> </ul>
第2時	探究課題を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに書く。</li> </ul>
	探究課題についてグループで考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、役割(リーダー、記録、発表者)を決める。</li> <li>・バズセッションで、お互いの考えを伝え合う。</li> <li>・グループで話し合い、結論を出す。</li> <li>・発表内容を話し合う。</li> </ul>
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時に備え、発表内容や役割分担を確認する。</li> </ul>
第3時	発表の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表についての留意事項を知る。</li> </ul>
	グループの結論を発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに、結論を発表する。</li> <li>・他グループの発表を聞いて、評価を行う</li> </ul>
	リフレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、自分の考えを書く。</li> </ul>

探究課題は、古代ギリシア寓話「カルネアデスの板」(資料6)を通して、「海に投げ出された乗組員の男Aに自分だったらどんな判決を下すか」とした。最初に、自分が乗組員だったら、この状況でどう行動するかを考えさせると生徒は「とりあえず二人でその板につかまり、沈みそうになったら自分の方が泳ぐ」「自分は全く泳げないので、板につかまろうとする相手を振り払ってしまう」「自分は背浮きをしながら、救助を待ち、板を子どもや女性、お年寄り

### 【資料6 ギリシア寓話の概要】

『カルネアデスの板』  
紀元前2世紀のギリシアで、一隻の船が難破をし、全ての乗組員が海に投げ出されてしまった。一人の男Aが辛うじて浮いていた板切れに捕まると、そこへもう一人の男Bが、その板に捕まろうとしてきた。しかし、二人が捕まれば板そのものが沈んでしまうと男Aは判断し、後から来た男Bを突き飛ばし水死させてしまった。その後、男Aは救助され、裁判にかけられることになった。



に譲る」などと、自分の考えを記入した。バズセッションで、グループで自分の考えを伝え合った後、グループとしての結論を話し合った。そして、グループで出した判決を基に、生徒は自分の考えと比べながら、多面的・多角的にさまざまな意見を交わし合えた。自分とは違う他者の意見を聴くことで、当初自身が抱いていた判決の内容・根拠とは異なる別の判決内容・根拠を形成することができた、という感想が何人かの生徒から見られた。改めて、自他の生命の大切さについて、議論し考える機会ができた点を生徒は肌で実感していた。

### (3) 道徳科の学習における評価の取組

ア 評価を生かした指導方法の改善（F小学校の実践）

F小学校では、研究推進体制として授業づくり部会を設置し、教材に応じたねらいの作成やねらいに迫る授業づくりについて検討している。また、学年部会で事前に中心発問等の検討を行うだけでなく、授業後の振り返りを行うことで、授業の評価を他クラスでの授業改善に生かしている。6年部での研究授業を通じた授業改善についてまとめた。

主題名：これって友達？      内容項目：B 信頼・友情 教材名：「メールの返信」      （出典「明るい心」6年）
<b>【教材のあらすじ】</b> 主人公のユミと友達のナナが頻繁にメール交換をし合っていたところから話が始まる。そのことで母から注意を受けたユミは母と相談をして9時以降のメールはしないと決めた。そのことは、友達のナナにも伝えてあったが、自分の都合でメールをしてきたナナの相談にのれなかったことで、ユミとナナの関係はぎくしゃくしてしまう。

授業前の学年部での協議で、ねらいや中心発問、振り返りを以下のようにした。

ねらい	ユミにとってナナは親友であるかの話し合いを通して、相手の立場や考え方を尊重して友達と接しようとする心情を高める。
中心発問	ユミにとってナナは親友なのだろうか。
振り返り	今日学んだことから、自分を振り返ろう。

授業後の協議会では、親友という言葉にこだわり、「これくらいのことで、親友という関係がこわれない」と発言する児童が多かったとの指摘があった。学習の振り返りにも、「仲がいいから、言いたいことも言えるので、わたしは、けんかも仲良しのしるしだと思います」「友達のナナは、ユミが9時以降メールしないことは分かっていたけど、これまでもメールをしていたし、親友だから困ったときには相談にのってほしいし、気付いていたら相談にのってあげたかったと思うので、親友です」という記述が多く見られ、ねらいである相手の立場や考え方を尊重して友達と接しようという心情を高める

### 【資料7 事前アンケート】

友達になら許されることアンケート		月      日 名前
◎ 友達になら許されると思うことには、○、許されないとと思うことには、×をつけましょう。		
1	呼びすてで呼ぶ	5 勝手にえん筆を借りる
2	あだ名で呼ぶ	6 言いたいことを言う
3	待ち合わせに少し遅れる	7 ちょっかいをかける
	少してどれくらい	8 勝手に物にさわる
4	からかう・いじる	
9	そのほか	

ことができなかつたと授業を評価した。そこで、別の学級では、中心発問の「親友」という言葉を「友達」に変え、返信メールを読んだ時のユミの気持ちを考えることにした。さらに、事前に友達についてのアンケート（資料7）を行い、その結果を導入で触れることで、「友達」の範囲が人によって違うことに児童が気付くきっかけにしたいと考えた。

検討後のねらい	ユミにとってナナが友達であるかの話し合いを通して、人は自分の都合で物事を判断しがちなことを理解し、相手の立場や考え方を尊重して友達と接しようとする心情を高める。
中心発問	返信メールを読んだとき、ユミはナナのことを友達だと思っているだろうか。
振り返り	今日学んだことから、自分を振り返ろう。

**【児童1の振り返りの記述】**

ぼくは、ナナがメールをした気持ちは理解できるけど、やっぱりルールを守るの方が大切だと思いました。

児童1の振り返りの記述から、「ナナの気持ちは理解できる」という自分の思いと「ルールを守る」、つまり「相手の都合を尊重する」ことを比べ、「自分の都合で物事を判断すべきではない」と判断していることが分かる。本時では、教師が「夜9時以降メールできないと分かっていたのに何でメールしたの?」と児童に切り返すことにより、「どうしてもユミに相談にのってほしかったナナの気持ち」に共感させ、ねらいの「人は自分の都合で物事を判断しがちなこと」に迫ることができた。また、事前アンケートから「友達になら許してもらえと思うこと」は、人によって違うことに気付かせるとともに、キーワードの「自分の都合でメールしている」「自分勝手」「分かってよ」という児童の意見を赤で板書をしたことも、「相手の立場や考え方を尊重する」というねらいの達成につながったと考える。

**【児童2の振り返りの記述】**

いちばん仲良しだった友達と関係がくずれてしまったので、メールは少しこわいと思いました。わたしも友達との関係を振り返り、これから友達と接していきたいです。

児童2は、「わたしも友達との関係を振り返り、これから友達と接していきたい」と今後の自分の行動について、漠然とした感想しかもてなかった。授業後、児童2の振り返りの記述に、担任は「本当にそうですね。友達であっても一人一人思いは違うので、まずは、相手の思いや都合を優先することが大事ですね」と朱書きを入れて、児童に返した。これにより、「相手の立場や考え方を尊重する」というねらいに気付かせようとした。

学習の振り返りの記述から児童の学習状況を把握し、指導が適切であったかを、授業を振り返って協議することで、授業改善を進めることができた。また、学年部会で協議をすることで、組織的・計画的な評価の推進にもつながった。

**イ 一枚ポートフォリオ評価の実践（B小学校の実践）**

一枚ポートフォリオ評価は、「教師のねらいとする学習の成果を、学習者が一枚の用紙の中に学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法」として、堀哲夫氏（現山梨大学理事・副学長）が2002年に開発したものである。一枚ポートフォリオ評価では、学習者が記録する一枚

の用紙として、OPP (One Page Portfolio) シートを用いるが、そのOPPシートを構成する要素として、堀氏は「A シートタイトル」「B 学習前・後の本質的な問い」「C 学習履歴」「D 学習後の自己評価」の四つを挙げている。

B小学校では、愛知県総合教育センター研究紀要第105集の「小中学校における多様な評価手法に関する研究（道徳）」を参考に、OPPシート（資料8）を作成した。

4時間の道徳科の授業を一つのまとまりとして考え、「A シートタイトル」は、4時間の学習後に児童に書かせた。「B 学習前・後の本質的な問い」は、4時間の授業を通して教師が最も押さえていたいことに関する問いとして、学習前・後で同じ問いを設定した。「C 学習履歴」は、授業ごとに、児童が考える授業のタイトルや最重要点を書かせた。児童が記入したOPPシートは、授業ごとに回収して、学習状況を教師が把握した後、朱書きをして児童に返却するとともに、授業改善に生かした。

「D 学習後の自己評価」は、学習前・後の本質的な問いへの記述の比較や、学習履歴への記述を基に、4時間の学習を振り返って自己評価をさせた。

昨年度、B小学校では設定したテーマについて6時間のまとまりで考える授業を実施した。まとまりで考えることで、児童の変容を捉えることができたという成果はあったが、学級の実態、学年や学校行事に配慮して、今年度は4時間のまとまりで授業を実施することにした。

B小学校の道徳教育の第6学年の重点目標は、「最上級生としての自覚と責任をもち、相手の立場に立って考えたり行動したりする」である。それを踏まえて、テーマを「『相手の立場に立って考えたり行動したりすること』について考える」と設定し、複数時間の関連を図った取組（次ページ資料9）を計画した。道徳科の年間指導計画を基に、テーマと各時間の内容項目との関連を図り、各時間で取り上げた内容項目は、1時間目「B－親切，思いやり」、2時間目「A－個性の伸長」、3時間目「B－相互理解，寛容」、4時間目「B－親切，思いやり」である。また、「学習前の本質的な問い」を、「『相手の立場に立って考えたり行動したりすること』とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。」とし、「学習後の自己評価」とともに、朝の会や学級活動の時間に記入する時間を設定した。

### 【資料8 OPPシート】

The diagram illustrates the layout of the OPP sheet, divided into a front view (表) and a back view (裏).

**表 (Front View):**

- Top Left:** A table with two columns. The left column is titled '<学習前 月 日>' and contains the text: 「相手の立場に立って考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。 The right column is titled '<学習後 月 日>' and contains the same text.
- Top Center:** A box titled '道徳ふり返しシート (表)' containing a smaller box for '<タイトル>' and a larger box for 'Aシートタイトル'.
- Center:** An illustration of three children holding hands.
- Bottom Center:** A box for 'お家の人からのメッセージ'.
- Bottom Right:** Fields for '年 組 番' and '氏名 ( )'.

**裏 (Back View):**

- Top Left:** A box for '月 日 【今日の学びのタイトル】' with a large empty space for writing.
- Top Right:** A box for '月 日 【今日の学びのタイトル】' with a large empty space for writing.
- Bottom Left:** A box for '月 日 【今日の学びのタイトル】' with a large empty space for writing.
- Bottom Right:** A box for '月 日 【今日の学びのタイトル】' with a large empty space for writing.
- Center:** The text 'C学習履歴' is placed between the bottom two boxes.

Arrows indicate the flow of the sheet from the front view to the back view.

## 【資料9 第6学年道徳科授業計画案】

第6学年 2学期 道徳授業計画案	
<p>&lt;学年重点目標&gt; 最上級生としての自覚と責任をもち、相手の立場に立って考えたり行動したりする。</p>	
『相手の立場に立って考えたり行動したりすること』について考える	
<p>短学活 道徳ふり返しシートの「学習前」の欄に、『相手の立場に立って考えたり行動したりすること』について、考えたことを書く。</p>	
<p>第1時（9月第2週） 主観名 親切 B-⑦親切、思いやり 資料名 二つの投書（出典 明るい心） ねらい 相手の立場に立って、人に親切にしようとする気持ちを高める。</p>	
<p>第2時（9月第3週） 主観名 困難に立ち向かい続ける心 A-④個性の伸長 資料名 選手になりたい（出典 明るい心） ねらい 自分の立てた目標を達成するために、困難にくじけず、最後までやり遂げようとする意欲を高める。</p>	
	<p>第3時（9月第4週） 主観名 広く心を開いて B-⑩相互理解、寛容 資料名 すれちがい（出典 明るい心） ねらい 相手の気持ちや考えを知り、それを大切にしようとする広い心を育てる。</p>
	<p>第4時（9月第5週） 主観名 相手の立場に立って B-⑦親切、思いやり 資料名 わたしのいもうと（出典 学園） ねらい 相手の立場に立って考え、人を思いやる心を育てる。</p>
	<p>学活 道徳ふり返しシートの「学習後」の欄に、『相手の立場に立って考えたり行動したりすること』について、今までの学習を振り返り、考えたことを書く。 道徳ふり返しシートの「自己評価」の欄に、学習前・学習後に書いた文章を比べて、思ったことや感じたことを書く。</p>
	<p>自宅に持ち帰らせ、「お家の人からのメッセージ」を書いてもらう。</p>

### (ア) OPPシートを活用した授業改善

児童3は、OPPシートの学習履歴（資料10）に、第1時「自分のことでいっぱい」、第2時「自分が続けていることが」と記述し、自分自身との関わりの中で考えることができた。しかし、相手の立場に立って考えたり行動したりすることについて考えるところまでには至っていない。

### 【資料10 児童3のOPPシート「学習履歴」の記述①】

第1時	【今日の学びのタイトル】感謝の気持ち
	自分のことでいっぱい、周りの人たちの気持ちを考えることができないときでも、自分ができることを考えて、行動する。
第2時	【今日の学びのタイトル】継続中
	自分が続けていることは、全部無駄ではないから、いつかやってよかったと思えるようにがんばること。

そこで、第3時の「B-相互理解、寛容」についての授業では、展開後段で、「この後二人は、相手のことを考えて、どのようにすればよいでしょう」という発問をしたときに、板書（資料11）に「相手」というキーワードを強調して残した。すると、第3時の児童3の学習履歴（資料12）には、「誰かが私に向かって意見を言ったとき、相手のことを考えて意

### 【資料11 キーワードを強調した第3時の板書】



見を返せるようにしたい」と記入し、「相手」を意識して考えられるようになったことが分かる記述が見られた。

第4時の「B－親切，思いやり」の授業では，いじめられて苦しい思いをしていた妹の家での様子を描いた絵本を資料として使い，相手の立場に立って考えることについて，授業で話し合った。最初，絵本の中のいじめという問題に対して，自分にはあまり関係ないという様子で話し合いが進んでいた。しかし，「いじめが周りの全ての人を不幸にするのではないか」という児童の発言によって，自分たちの生活でもいつ起こってもおかしくないと自分のこととして真剣に考え始めた。第4時の児童3の学習履歴（資料12）では，「誰かが困っているとき，力になったり助けてあげたりした方がよいと分かっているのに，なかなか行動に移せない」と今の自分自身を見つめながら，大切であると分かっているにもかかわらず実現することができない人間の弱さについて理解を深めている。その上で，「『困っているからすぐ助けなきゃ』と思えるようになりたいです」と，「困っているから」と相手の立場に立って考え，「『すぐ助けなきゃ』と思えるようになりたい」と，これからの自分の生き方として実現していこうとする思いを深めることができた。このように，複数時間の指導を通して，児童の学習状況を把握することで，学習状況に基づき指導に生かす視点を得ることができ，授業改善に生かすことができた。

【資料12 児童3のOPPシート「学習履歴」の記述②】

第3時	【今日の学びのタイトル】 聞き入れる力
	誰かが私に向かって意見を言ったとき，相手のことを考えて意見を返せるようにしたい。
第4時	【今日の学びのタイトル】 困っている人を見たら
	誰かが困っているとき，力になったり，助けてあげた方がよいと分かっているのに，なかなか行動に移せないで，困っている人がいたら，「困っているから，すぐ助けなきゃ」と思えるようになりたいです。

(イ) 学習後の自己評価による児童自らの成長実感

児童4は，「学習前・後の本質的な問い」の「相手の立場に立って考えたり行動したりする」ことについて，学習前は「言葉がけ」「相手の気持ちを考える」の二つの内容を記述した。4時間の学習後には，「もし自分が相手だったらということを考えて，行動すること」「ふわふわ言葉を使う」「誰にでも親切にしてあげられること」と記述する内容が三つに増えただけでなく，より具体的になっている（資料13）。

また，「相手の立場に立つ」ことについて，学習前の「相手の気持ちを考える」という表現が，学習後には「もし自分が相手だったら」に変わった。これは，自分との関わりで考える学習の積み重ねによって，「学習前・後の本質的な問い」について自分のこととして考えようとしていることが分かる。「親切に」という記述から，第1時と第4時に親切について考えた授業構成の成果や，「誰にでも」という記述から，第4時の授業のまとめで，どんな人にもよいところやよくないところがあるが，それを受け入れてうまく接することが大切であるという教師の話の成果が，この記述につながったのではないかと考えられる。

さらに，児童が自分の「学習前・後の本質的な問い」の記述を読んで，学習を振り返る自己評価の欄には，「道徳の学習の後，相手の立場に立って考えたり，行動したりすることを頭の片すみにおいて生活できるようになったかな」と記述しており，児童4自身が，自らの成長を実感することができたことが分かる。

**【資料13 児童4のOPPシートの「学習前・後の本質的な問い」「学習後の自己評価」の記述】**

<p>&lt;学習前・後の本質的な問い&gt;  「相手の立場に立って考えたり行動したりする」とはどういうことだと思いますか。思いっただけ書いてみましょう。</p>	
<p>&lt;学習前&gt;  ・言葉かけ  ・相手の気持ちを考える</p>	<p>&lt;学習後&gt;  ・もし自分が相手だったらということを考えて行動すること。  ・ふわふわ言葉を使う。  ・誰にでも親切にしてあげられること。</p>
<p>&lt;学習後の自己評価&gt;  今までいろいろな話を読んできて「相手の立場に立って考えたり、行動したりする」に対する考えが深くなり、詳しく考えることができるようになったと思いました。  <u>道徳の学習の後、相手の立場に立って考えたり行動したりすることを頭の片すみにおいて、生活できるようになったかな</u>と思います。</p>	

OPPシートを活用した複数時間の指導を通して、児童の学習状況を把握することができ、板書や発問を工夫するなどの授業改善につながった。また、児童が自身の学習の様子を振り返ることで、自らの成長を実感でき、実践意欲の高まりにつなげることができた。

## 6 研究のまとめと今後の課題

道徳教育の推進体制づくりや指導方法の工夫・評価に取り組む際の基本的な考え方を整理し、各研究協力委員の所属校の実態等に応じた多様な取組を実践することができた。これらの実践から、授業改善に向けた推進体制づくりの方向性が少しずつ明らかになってきた。今後、本研究において、一枚ポートフォリオ評価を用いた実践を中学校や高等学校でも行うとともに、小中高のつながりを意識した指導内容を充実させ、発達の段階を考慮した指導と評価の在り方について検討を進めたい。そして、道徳教育の推進を図るために、道徳教育の体制づくり及び指導方法の工夫や評価に取り組む上でのポイントを明らかにしていきたい。

## 7 おわりに

平成30年度から小学校で、「特別の教科 道徳」がいよいよスタートする。第57回愛知県総合教育センター研究発表会第1部会で、名城大学宮嶋秀光教授から「指導体制の推進と指導と評価の確立は表裏一体である」と御指導をいただいた。今後、「考え、議論する道徳」への転換の実現に向け、発達の段階に応じた道徳教育の更なる充実を目指して、研究を進めていきたい。

## 参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- 中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」2014
- 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」2016
- 堀哲夫著『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館出版社、2013